（様式３）

自 己 評 価 結 果 票

	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念は、玄関口に表示し、説明も都度行っている。	○	地域密着型になり、地域の入居者が増え、家族や知り合いの方の来所が増えた。地域の様子がより分かり易くなったので、地域とのかかわりの機会をもっと増やしていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の実現に向け、職員同士話をし、毎日取組んでいる。	○	理念をより分かり易くする為の信条、目標等を目に付くところに貼りだしてある。職員同士の話し合いの中で常に確認しあい、注意しあえるようにしていく。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	明示及び説明をし、同意を得ている。	○	改めてご利用者さんの自宅付近の地図や馴染みのお店や知り合いの家などの地図を作成し、職員で共有し、ご利用者さんを地域のかかわりを深めて行く。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	あいさつを含め徹底して行なっている。 また、地域の清掃活動などに参加している。	○	大分顔見知りの方が出来始め、挨拶や軽い会話などは気軽に出きるようになったので、行事ごと以外にも施設に気軽に来所できるような手立てを計画する。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	希望者を募り、老人会などに参加している。	○	子供会とのかかわりをもちたいと考えているが、夏祭りなどの参加しかできていないので、子供の日、敬老の日など行事の交流をやりたい。子供会の役員さんと話し合いをもつ。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域に対して、独居高齢者等への安否確認など協力体制が出来ていることは伝えている。	○	高齢者虐待
3．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	利用者の生活や事業所の取り組みの再確認を含め、有効に利用している。	○	口腔ケア、食事前の手洗いなど具体的な面での指摘に対してはすぐに出来ることなので実施している。清掃面ではまだまだ抜けているところもあるので、再度徹底していく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催はしているものの、出席者が毎回少なく（家族のみの出席）、現況報告等で終わってしまっている。	○	運営委員の選出、推進委員会の内容や方向性を再度検討していく。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	太子町職員は運営推進会議に出席されないので、報告を兼ねて定期的に訪問している。	○	施設長が出来るだけ役場を訪問し、交流や情報交換などをしているが、職員までは出来ていないので、町主催の行事事に参加していき、交流の場をもつ。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、利用されている方がいないので必要としていないが、制度を含め内容は理解し説明できる準備は出来ている。	○	今年度、利用されるかもしれないと言う方がおられたので、制度の内容は理解しているが、職員の入れ替わりなどでまだ理解できていない職員の教育をする。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	グループ事業所内で高齢者虐待防止のパンフレット等を回覧し、職員同士の理解を深めている。 また、常に防止に努めている。	○	緊急受け入れの該当施設になっているので、いつでも受け入れられる状態になっているが、地域のネットワークづくりをする。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
4．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、重要事項説明を行い、その際に本人の不安な部分、家族の不安な部分などを聞き取りし、十分な説明を行っている。 また、解約時も本人の様子や今後の生活の注意点など、我々の出来ることを説明している。	○	施設長及び統括がしっかりと説明しているが、全職員が出来るようにしていく。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情等を受けた段階で、すぐに会議等を開き、対応方法等を検討し職員への徹底を図っている。	○	たとえ小さな苦情でも真摯に受け止め、報告書に記載し、全員に通達してその現象のみに終わらず、その背景的な面まで話し合っていく。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の希望にあわせ電話や手紙などで日々の様子等を連絡している。（最低週１回以上） 金銭については必要に応じて連絡、月１回の使用状況の確認をしてもらっている。	○	連絡は定期的に出来ている。話したり聞いたりした内容を記載し、職員間が共有できるようにしているが、話し方や伝え方の不具合がうまれるので、お互いに連絡している様子をみて、注意しあうようにする。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情等を受けた段階で、すぐに会議等を開き、対応方法等を検討し職員への徹底を図る。 また、それらの内容を家族へ連絡している。	○	家族の意見や苦情が聞かせてもらえるようになってきているので、家族会の回数を増やしたり、個人面談を多く実施していく。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常にコミュニケーションをとるように心掛け、働きやすい環境を築く努力をしている。	○	意見やアンケートなどを各事業所にむけて実施し、その結果を公表しているので、他の事業所の状態も把握でき、意見を反映出来ている。意見を全員が出せるようにもっと呼びかけていく。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	１ヶ月間のシフトを作成し行なっているが、緊急時等の場合は、職員同士の連携によりシフト交代等を行なっている。	○	前もって予定や計画をたて、その日の状況で変化するが対応出来るように工夫し、職員間の話し合いは常にもっている。より連携が取れるようにいていく。一階二階の連携をとりお互いに協力する。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動に関してはほとんどない為心配ない。 離職に関しては最大限の努力をしているが、利用者と接する前の入社時の研修が大半である。	○	全員が変わることはないので、職員の入れ替わりには十分の配慮をしている。無理はしないで、少しづつ受け入れてもらえるように､以前からの職員で上手く補って行くようにする。
5．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間スケジュールのようなものはないが、事業所内で、職員の不安な部分や不足している部分の勉強会などをその都度開催し、職員のレベルアップを図っている。	○	スキルアップ試験を実施している。全員が挑戦していないので、出来るだけ全員が自分のレベルに応じて挑戦出きるようにする。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	入居の問い合わせ等に関して交流は出来ているが、それ以外はない。	○	研修会など知り合った施設の見学などをお互いにし、意見交換などをしてみる。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士が気軽に話し合える環境を築いている。 職員同士の日々のコミュニケーションを大事にしている。	○	休憩室ができ、また空き部屋の利用で職員が憩える場所が出来たので、より職員間のコミュニケーションを深める。親睦会を実施する。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自の長所短所などを理解し、役割分担をしている。	○	悪いところや出来ない部分ばかりに目をやらずに、微妙な変化や頑張りを見つけ、認めていく職員づくりをする。自分の分担や役割に責任をもつ職員になる。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**				
23	○初期に築く本人との信頼関係 　相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の相談を受けてから利用までの間に、可能な限り訪問を何度もさせて頂き、本人との顔なじみの関係を築く努力をしている。その際に、不安な部分や本人の生活の様子などを聞いている。	○	統括が責任もって実施しているが、担当者が決まると出来るだけ決まった職員が訪問したり、家族とのつながりを深めていき、ご利用者さんと顔馴染みの関係を作って行く。
24	○初期に築く家族との信頼関係 　相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居の相談を受けてから利用までの間に、訪問等を何度もさせて頂き、不安な部分や本人の生活の様子などを聞いている。	○	統括が責任もって実施しているが、家族に絶大なる信頼と安心感をもってもらう。どんなことでも相談出来る解決への方法を一緒に考えてもらえると言う安堵感をを家族にもってもらう。
25	○初期対応の見極めと支援 　相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本当にその方に合ったサービスが何か、私たちで出来ることは何か、といったことは、本人及び家族に説明している。	○	施設長及び統括がご家族と色々面談し、選択肢を提示し、ご本人にとってどう方法が一番良いのかを説明している。よりこまやかな心配りをする。
26	○馴染みながらのサービス利用 　本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と顔なじみの関係を築けるよう訪問させて頂いたり、見学に来ていただいている。居室内も、今まで生活していた環境に極力近づけるよう家族と相談しながら準備、受入れを行なっている。 また、体験利用などが出来ることを伝えている。	○	体験利用を実施したり、ディサービスなどの利用で徐々に馴染めるような体制をつくっている。
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 　職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	運営理念にも掲げているが、介護する側、される側ではなく、一緒に生活させて頂き、その中で必要な介助等をさせてもらっている。	○	ゆったりと過ごし、ご利用者さんが情緒的に安心され、穏やかに過ごせるよう職員の言葉、態度､行動などホスピタルリティの理念に基づき職員のマナーを向上しょうをしている。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	一部の家族とは非常に良い関係が築けているが、無関心な家族も現状いるので一概には言えない。ただし、最低週１回以上の家族連絡は必ず行っている。	○	家族の個性も色々なので、ご利用者さんを中心におき、どのような関係が適切なのかを全員で話し合い、実践していく。
29	○利用者と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の気持ちを最優先した上で、可能な限り家族に協力してもらい、良い関係を保てるように努力している。	○	家族によって協力の仕方に大きな差があるので、ご利用者さんの気持ちを優先しながら、家族の状況や考え方を考慮し、どのような関係を築いていくのがよいか全員で話し合い、実践していく。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけのお店や場所、友人宅等に希望時に行けるようにしている。	○	行きつけのお店や馴染みの場所、友人宅などを再確認し、自宅周辺地図を作成していく。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係は把握している。 一人でいることが好きな方もいるので、その方にとっての必要な関わりが持てるようにしている。	○	ご利用者さんの個性を大切にし、合う合わないなどもあるので、リビングの配置や生活の流れなど環境を整える。職員の人的環境も大切になるので、十分に配慮する。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス終了後も必要な相談等ができるように心掛けている。	○	逝去された方への法事こどなどの情報をしり、何らかの手立てでお悔やみの気持ちを伝える。入院中の方などはお見舞いに行く。お手紙やハガキを出す。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1. 一人ひとりの把握**				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に本人主体で希望や意向を伺い実行している。意思疎通が困難な場合でも、過去のその方の生活や家族からの情報等により、本人の生活しやすいよう努めている。	○	口に出せない思いや気持ちをより大切にしている。毎月のモニタリングでしっかりと把握していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の今までの情報の把握に努めてはいるが、まだ不十分である。	○	アセスメントシートを活用し、家族からお聞きし、再度情報の把握をする。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	大筋の現状は把握しているが、日々同じ事がないので難しい部分もある。	○	日課の見直しをし、押し付けではなく、本人の希望を優先するが日々の過ごし方を充実したものにしていく。
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	アセスメントが不足している為、本当にその人を基本とした介護計画かどうか疑問だが、家族連絡の徹底や本人と話をし、出来るだけ本人にあったかいご計画を作成している。	○	担当者以外の介護計画の把握が出来ていない部分がある。計画担当者が各職員にしっかり伝えていき、全員が計画に基づいてケアしていく。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入退院時には状態によって見直しをしている。状態の変化時にも見直し、作成している。	○	情緒面での計画がぬけているので、充実させていく。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に反映させる為のケースが書けておらず、その時々の状態であったり、大まかでしか書けていない。 情報の共有では、定期的に会議を開き意見交換等を行なっているが、報・連・相が出来ていない部分があり改善の必要がある。	○	月一回のモニタリングと日々のケース記録をしっかりと記載し、ご利用者さんの微妙な変化や様子に気がつく。ケースは変化があれば変更する。
3．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	相談等には応じている。		
4．より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	特に意向等もなく、必要に応じて警察、消防との協力体制を確認している程度である。		
41	○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	意向、必要性があれば検討するが現状はない。 他の事業者とは、入居相談等の機会を除き、関わることが少ない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特にしていない。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
43	○かかりつけ医の受診支援 　利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望に添い受診等の支援を行っている。また、かかりつけ医と連携を取り、本人の様子等の連絡を行っている。	○	実施している。
44	○認知症の専門医等の受診支援 　専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力医療機関と相談しながら連携をしている。	○	なかなか認知症を理解してもらえる病院がなく、上手くいかないことも多々あるが、協力医療機関とこれからも相談しながら連携していく。
45	○看護職との協働 　利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	デイサービスの看護職員と連携を取り、医療支援等を行っている。	○	看護職が職員としてチームにいるので、専門職を活かした医料支援を実施する。衛生面健康面などケアに生かしていく。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 　利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	毎日、お見舞いに伺い、看護士等と情報交換を行っている。また、退院時に想定される状態等を理解し、退院に向けた準備等を行なっている。	○	退院後の受け入れに向けての準備や介護計画が遅れ気味になるので、計画立ててしっかりと実施していく。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 　重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	常に本人や家族等の意向を尊重し、受け入れ体制は整えている。ただし、医療行為等での対応が不完全な為、十分なケアが出来ないことが考えられる。	○	家族との話し合いにより、ご本人にとって一番良いケアは何なのかを決めている。医療面での不完全な対応をどのように受け入れていくのか看護士とともにケアを考える。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 　重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所での出来ること、出来ないことの見極めは出来ているが、かかりつけ医とチームとして取組めているかはわからない。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や関係者と十分に話し合いをしてその方にとって最善と思われる方法をとっている。		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1. その人らしい暮らしの支援** **(1) 一人ひとりの尊重**				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	常に尊厳をもって接してはいるが、不要な言葉がけがまれにある。個人情報に関しては万全な体制を築いている。	○	慣れと溜口は違うが言葉や内容が不適切な時がまだある。職員間でお互いのマナーの見直しをしたり、会議の時にマニュアルに基づき再度確認する。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	常に本人のペースに合わせ接するように努めている。	○	選択肢がたくさんあり、声掛けの際に決定事項を伝えるのではなく、どうされるのか意向をお聞きする言葉かけをする。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合を押し付けることのないよう、一人ひとりのペースに合わせている。	○	個々の人の生活ペースを把握し、大きな乱れは職員間で話し合うが、ご本人のペースを大切にする。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容･美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人と相談し、どのような服が着たいか決めている。 また、本人希望の理容・美容店等に行っている。	○	朝の身支度はきっちりとする、顔を洗ったり､髪の毛を整えるなど身だしなみを整える。服装は乱れている時はそっと声かけし、直したする。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々人に合った食器等が使えていない。入居までに使っていた湯のみや箸を持ってきてもらっている。 片付けは、利用者がしてくれることが多いが、準備に関しては職員がしていることが多い。	○	日々の献立表を提示している。調理や片づけにもご利用者さんが出来ることはされる。材料を切ったり、食器洗いをされる。台所を手伝う時はエプロンを着用する。
55	○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	個人の嗜好品に関しては、好きな時間に楽しめるように準備している。	○	好き嫌いが大分把握できてきたので、出来るだけ全員の方が満足できるような食事や嗜好品を蓄えておく。
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンが把握できておらず、声掛けも職員都合の場合がある。	○	個々人の排泄パターンの把握に努め、職員間の連携により本人のペースにあった排泄介助をする。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	24時間いつでも入れることを利用者に伝えている。 本人の意思により入浴している。	○	本人からの希望がない方も声かけし、生活の中の流れに習慣づいてきている。全介助の方の入浴がなかなか定期化できていないので、日中に看護士の協力を得て、実施していく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の生活パターンを崩さないよう支援している。	○	夜間になかなか不安定で安眠できない方のケアを共有化し、職員間で日中のケアを含め話し合う。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	好きなことを継続して行なってもらえるよう支援している。	○	自ら何かをしようとされない方への楽しみごとや気晴らしを色々なことを提供し、選択してもらう。好きなことを出来る場を保障したり、環境を整える。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の大切さについては常々話しており理解している。 本人の希望にあわせて使えるように支援している。	○	本人がお金の管理出来なくなっている方へのお金の使用の方法を再度話し合う。欲しいものを買うと言う体験をもっと取り入れる。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所内で過ごすことが多い。中で過ごしたい人には良いが、こちらからの声掛けが必要な方に対しては不十分である。	○	外出や個人のお出かけなど、チームケアとしてスムーズに実施できている。個々の外出への要望や認識を全員で話しあい、満足できる外出計画をたてる。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段から希望の外出が出来ることを説明している。 集団で外出のような機会は設けていない。	○	１０人乗りの車の購入により、多人数での外出が実施出来るようになった。行楽シーズンのお出かけも実施しているが、家族との旅行は出来ていない。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望により家族等への電話が出来るよう、事業所の電話を使ってもらっている。	○	実施している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族等が来た際に、居室以外でもくつろげる空間を作っている。	○	お茶やお菓子をお出ししたりして寛いで頂けるように精一杯のおもてなしを心がけている。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしていない。		

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間の防犯上以外は鍵をしていない。		
67	○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日々注意は払っているが不十分である。	○	連携をしているが、見守りの不十分さや職員間の手際の悪い動きにより安全面に惰りがでる。職員ひとりひとりの危機感を何度も繰り返しもつようにする。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個々人の状態に合わせて注意を払っている。 また、菓子袋内の防腐剤等は最初から取り除いている。	○	異物誤飲の方もおられるので、薬、洗剤、清掃薬など、置き場所を決め、きちんと収納している。おやつ、汚れ物など取り込みされ､自室にもって帰られる方には本人の了承を得て、片付けを定期にする。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	対応が後手になってしまうことが多くまだまだ不十分である。	○	アセスメントを充実し、未然に転倒等の事故を防げるよう努める。
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の部分で職員レベルにばらつきがあり、対応が不十分である。	○	消防署に依頼し、救急法や心肺蘇生法の研修を開催し、最低限必要な応急手当等の再確認を行なう。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアル作成は出来ているが熟知されていない。	○	職員の入れ替わりがあり、適切な訓練方法が難しかったので新任教育の一環として消防署の消火器訓練を受けた。人数点呼、夜間の模擬消火、など出来る訓練から実施していく。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 　一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	リスクについては都度説明させてもらい、理解して頂いている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 　一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化や異常のサインに気付けていない。見落としが多い。	○	看護士が日々の視診及び血圧検温により、個々の方の体調を把握する。ご利用者さんの様子や表情をしっかりと日々見守る。
74	○服薬支援 　一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については理解しており、本人に確認し服薬している。症状の変化、確認は出来ていない。	○	薬の管理は看護士にもって症状の変化等を確認しケース記録に記入。次回受診時に報告、相談する。
75	○便秘の予防と対応 　便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食事の工夫や運動について不十分である。	○	便の状態をケースに記載している。水分や運動でも解消できない場合は看護士と相談の上、受診する。
76	○口腔内の清潔保持 　口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアはほとんど出来ていない。	○	自立されている方は看護士が週に一回、口腔チェックをする。適切な指示をもらう。介助の方は朝の身支度の日課に取り入れる。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 　食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取チェック表を作りおおよそ把握出来ているが、チェック漏れがある。	○	ケースに記載し、把握している。夜間に起きておられる方の水分補給が共有化されていないので話しあう。個々の状態に応じて食事面の不足なカロリーは他のもので補っている。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	マニュアルがあり、予防、対応方法共に実践できている。	○	看護士が衛生面での指導及び管理をする。来所者にも協力を呼びかけているが徹底できないので改善策を考える。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	消費期限を守り、調理方法等徹底している。 衛生管理の部分は消毒等不十分な点がある。	○	食材だけでなく、調理器具等にも気を配り万全の体制を心掛ける。
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **(1) 居心地のよい環境づくり**				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を植えたりして少しでも明るくなるよう努めているが、現状近隣の人たちが来ることはない。	○	看板がないのでわかりにくいと言われたので、木製の表札を作成して入口に立てる。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	違和感や圧迫感のないよう物の配置などに気を配っている。また、玄関には花を植え、明るい雰囲気になるようにしている。	○	季節感がなかなか取り入れられないのでもう一工夫する。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	大きなリビング内にもいくつかの空間を作り、好きな場所で過ごせるようにしている。	○	定期的に変化させていく。置物や飾り物で安らぎの空間つくりをする。

項　　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 　居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自宅で使っていた家具等を持ち込んで頂いている。	○	落ち着く居室とはご本人の話を聞いたり、家族の協力を得ながら、居心地よく過ごしてもらう。
84	○換気・空調の配慮 　気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	窓を開けるなど利用者に確認しながら努めている。 温度調節は、外気温と大きな差が出ないよう事前に暖めたり配慮している。	○	各部屋ごとに空調温度に差があるので、体感温度に頼らず、温度計などの設置する。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 　建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有部の壁には手すりがついており、また、利用者の導線上に物を設置するなどの工夫をしている。	○	安全面を考慮した配置をして空間作りをする。
86	○わかる力を活かした環境づくり 　一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレやお風呂、各階などの明示をし、本人の希望により居室に表札をつけたり工夫している。	○	場所の明記がパターン化されているので、一工夫する。
87	○建物の外周りや空間の活用 　建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	利用者と一緒にプランターの花や野菜などの手入れをしている。	○	裏の畑の活用が上手く活かせていない。栽培物年間計画及び花々の植え替え計画をつくる。

（ ▒▒ 部分は第三者評価との共通評価項目です ）

Ⅴ．サービスの成果に関する項目

項　　目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の２/３くらいの ③利用者の１/３くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に１回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の２/３くらいと ③家族の１/３くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項　　目		取り組みの成果 （該当する箇所を○印で囲むこと）	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の２/３くらいが ③職員の１/３くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の２/３くらいが ③利用者の１/３くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の２/３くらいが ③家族等の１/３くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者主体の理念の下、本人の希望に応じた生活援助を一緒に行なっている。また、利用者一人ひとりのペースを大事にし、常に職員同士の連携が図れるよう日々向上心を持って取組んでいる。